

災害に強くなる消防の広域化

長野県 上伊那広域消防本部

1 上伊那広域消防本部の概要

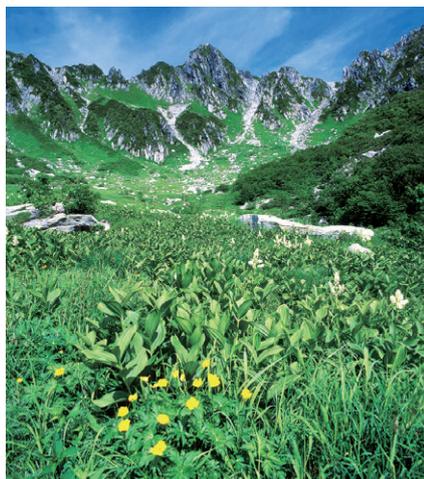
上伊那広域消防本部は、長野県の南部に位置し、伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村の2市3町3村で構成された上伊那広域連合の圏域を管轄しています。

上伊那地域は、ユネスコエコパークに登録された南アルプス、駒ヶ岳ロープウェイと千畳敷カールの中央アルプス、天下第一の桜「タカトオコヒガンザクラ」で有名な高遠城址公園など、自然豊かな資源を有し、美しいふたつのアルプスの山並みや、花や緑に囲まれた豊かな自然環境の中で、地域の伝統や文化を大切にしながら、暮らす人、訪れる人を楽しませる地域です。

管轄人口は約18万6千人、地勢は、東西39.4 km、南北54.7 kmの広がりを持ち、管轄面積は1,348km²に及びます。管内標高の最高地点（伊那市塩見岳（東峰）：3,052 m）と最低地点（中川村天龍橋付近：460m）とは2,600 m近い差があり、東西に急峻な山岳エリアを抱える特徴的な地域に、1本部、6消防署を配置し、職員206名にて、地域住民の安心安全の確保に努めています。



「タカトオコヒガンザクラ」の高遠城址公園と南アルプス



夏の中央アルプス千畳敷カール

管内図



2 広域化に至る経過

平成18年の消防組織法改正以降、全国的に常備消防広域化の検討が進められ、長野県においても、県内を東北信、中南信の2ブロックに再編する検討が進められましたが、諸々の事情により、協議は一旦休止となりました。

しかし、東日本大震災の惨状と、これに立ち向かった消防署員、消防団員、自治体職員の活動について、応援、受援の両面から省みて、消防力の強化と効率化、大規模災害時の受援体制整備のためには、上伊那地域の消防の広域化は不可欠であるとの判断から、平成24年7月に、伊那消防組合と伊南行政組合により「上伊那消防広域化協議会」を設置し、消防組織一本化について検討を進めてまいりました。

平成25年8月には全国初となる「消防広域化重点地域」にも指定を受けるなど、長野県をはじめとした関係各位のご協力により、平成26年1月に「上伊那地域の

消防の広域化に関する協定」を締結しました。平成26年4月には受け皿となる上伊那広域連合に広域消防準備室を設置して移行準備作業を進めるとともに、構成市町村議会の議決を経て、平成27年4月1日に「上伊那広域消防本部」を発足し、業務を開始しました。



上伊那地域の消防の広域化に関する協定締結式（平成26年1月20日）



平成27年4月より運用を開始した
上伊那広域消防本部・伊那消防署庁舎

3 広域化の効果

広域化以前は、北部4市町村、南部4市町村それぞれの枠組みで一部事務組合を構成し、北部の伊那消防組合消防本部は、署員の人事管理も予算も各市町村の権限という「自賄い方式」であり、119番受信業務も3消防署それぞれで実施するなど、非効率な組織運営の改善が永年の課題でありました。また、南部の伊南行政組合消防本部は、本部体制がとられているものの、管轄人口は僅か5万9千人足らずで、今後予想される大災害に対して十分な備えがあるとは言えない状況でしたが、消防の広域化により、次の効果が期待されています。

(1) 初動体制の強化

発生事案に対する部隊数が増加したことにより、初動（第1次出動）体制が増強され、併せて第2次出動体制の充実が図られるなど、消防対応力の強化が期待されます。また、組合間における消防相互応援協定の応援手続きが不要になることから、集結時間の短縮が図られます。

(2) 管轄区域の適正化による現場到着時間の短縮

従来の管轄区域の制約がなくなったことから、市町村境界や行政区域を超えた活動が可能となり、現場到着時

間の短縮が期待されます。また、広域化に併せて、高機能指令システムを備えた消防指令センターを設置したことにより、災害覚知から現場到着までの時間が短縮され、発生事案に対する的確な部隊出動が可能になります。

(3) 統一的な指揮の下での効果的な部隊運用

組合間の応援要請による出動では、指揮命令が錯綜しがちでしたが、消防広域化に伴うスケールメリットを生かし、出動体制及び部隊編成の見直しを行い、管内の2消防署に24時間体制で指揮隊を編成することが可能となりました。これにより指揮命令系統の一元化が図られ、効果的な部隊運用が可能になります。

(4) 消防財政の効率化

財政規模の拡大により、特殊車両や高度な施設等が計画的、効果的に整備を図ることが可能となり、更には、重複投資が回避され、構成市町村の財政負担を軽減することが可能になります。



広域化に併せて整備した高機能消防指令センター



上伊那広域消防本部発足式で決意を述べる田畑消防長

4 おわりに

新消防本部の発足から1カ月余り、課題も多く日々調整がある状況は否めませんが、上伊那全域が一枚岩となった上伊那広域消防本部が、広域化のメリットを最大限に生かし、あらゆる災害に備え、消防活動体制の強化、火災予防行政の推進、救急高度化のため、培ってきた消防力を磨き、地域住民の安心、安全を守る砦として、その負託にこたえるべく、職員一同、全力で業務に取り組んでまいります。